

日商簿記 1 級過去問ゼミダウンロード講座

【第 129 回：工業簿記・原価計算】

収録日：平成 25 年 11 月 1 日

【総評】

この回の工業簿記・原価計算は「後から考えれば、そこそこの点数は確保できたのに」と感じる問題ですが、試験の緊張感を考えると、簡単どころか足切をおこしかねない問題でした。

商会で 40 点近い手ごたえのある方は、原価計算で 20 点、工業簿記で 10 点を目指す戦略です。

商会が 35 点くらいのイメージの方は、原価計算は満点狙いで工業簿記はイチかバチかで第一工程の借方と選択問題にかける方法もあります。

いずれにしても、時間配分の仕方によって、かなり点数のブレが大きい（リスクが高い）問題 1 だと思います。

90 分の使い方（今回は原価計算 20 点、工業簿記 15 点のイメージで説明します）

5 分：全体を見渡して、どこから解くかを考える

原価計算は問 1~問 6 で OK

工業簿記は第一工程にしっかり時間をかける。そして、選択肢の問題は完璧に対応する事で、まず足切を回避し、残った時間で X 製品の第二工程にすべてをかける。

この試験では Y 製品の計算には手を出すべきではありません（よほど余裕のある方以外はという意味です）

では、解説をすすめます。

まずは原価計算から説明します。

#1

#2

109回工業簿記

① A ② 3,000円

③ ④ 800 × 12,000

⑤ ⑥ 1,200 × 12,000

⑦ ⑧ 1,800 × 8,000

B ⑨ 5,000円

⑩ ⑪ 945 × 1,000

⑫ ⑬ 1,200 × 1,000

⑭ ⑮ 2,000 × 9,000

X

X

15,192,000	5,000	60,153,600
6,489,600	(2,500)	40,080,000
60,000,000	20,000	
9,600,000	(19,900)	
28,800,000		

1,000	3,009,680
(400)	801,600
4,000	12,030,920
(2,000)	4,008,000

→ 101,908,000

20,000,000

⑯ 945,000

⑰ 19,500,000

⑱ 4,000

22,000	111,748,000
1,500	19,140,000
(1,200)	7,619,250
500	(844,000)
(300)	2,539,750
	261,000

139,552,250

173-X

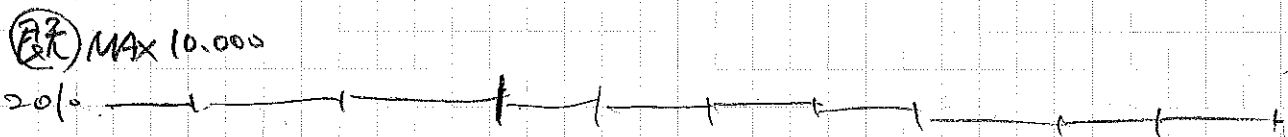
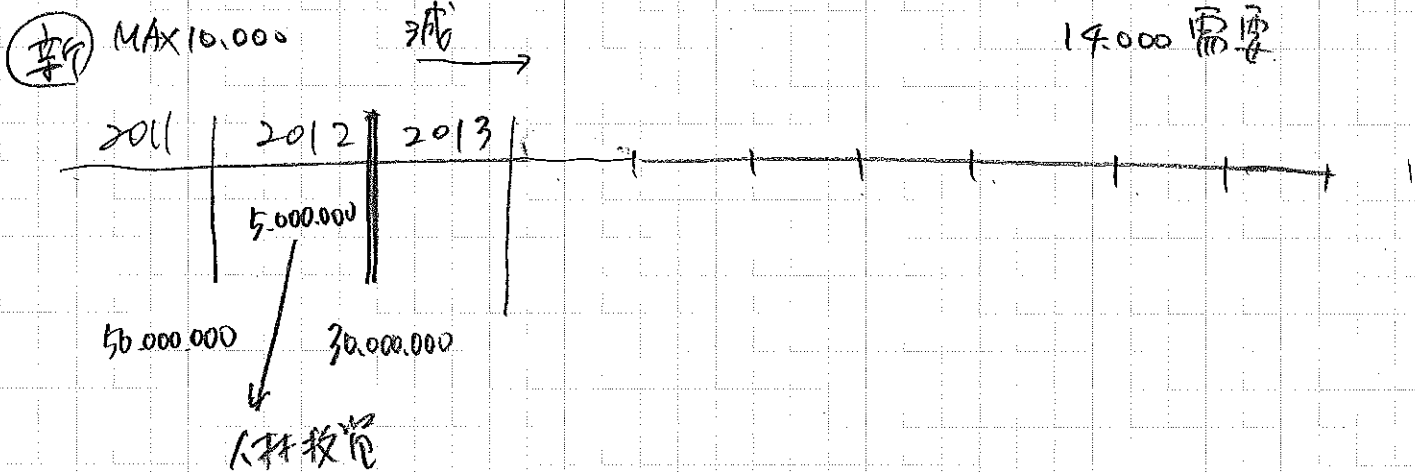
2,800,750

3,009,680	20,000	1,006,400
21,800,000		
1207,680	4,500	201,280

CF積

801,600	20,000
4,000	668,000
	133,600

129回 原西計算



③ 既

売	6,000
材	2,000
向	800
資	3,200

④ 新

売	6,000
材	1,600
向	400
資	4,000

減 10,000,000
tax 4,000,000

既 既 + 新

$$(3,200 \times 0.6 \times 10,000) \quad (4,000 \times 0.6 \times 10,000) + (3,200 \times 0.6 \times 4,000) + 4,000,000$$

$$19,200,000 \quad \underbrace{\hspace{10em}}_{16,480,000} = 35,680,000$$

⑤ [16,480,000 × 6.7327 - 33,000,000] × 0.9615 - 50,000,000 (税引後)

$$= 24,953,632.504$$

⑥ $3,200 \times 0.6 \times 1,000 \times 6.7327 \times 0.9615 = 12,429,102.816$

$$37,382,735.32$$